

令和4年度(2022年度)学校教育目標

学ぶ喜び、つながる喜び、働く喜びを実感できるチーム伊倉の仲間づくり



玉名市立伊倉小学校だより 第3号

## 勇気づけの言葉のシャワーで

### ——子供たちにとっての言語環境

草花や穀物の成長を促す春雨の降るころを「穀雨」と言います。今週はそんな空模様になりそうです。

私たち大人は普段、子供たちにどんな言葉をかけているのでしょうか。子供たちの成長にも大切な勇気づけの言葉のシャワーがありそうです。

#### NGなほめ方

**すごい！ えらいね！**  
**さすが〇〇ちゃんだね！**

こうした「おざなり」「人中心」のほめ方は具体性に欠け、性格・能力・外見などの表面的なほめ方です。一見よさそうですが、子供がほめられることに依存した行動をとるようになり、それ以外のことに興味を失ったりチャレンジしなくなったりする可能性があります。

#### プロセス中心

**練習をコツコツ続けてがんばったね。**

結果や能力、性格を讃えるのではなく、取り組んでいる過程での努力や挑戦した姿勢、方法を工夫した点などに言及し、励まします。子供はさまざまな方法を試して柔軟に挑戦し続けることができます。

#### さらに具体的に

**△△するとき、一つずつ丁寧にしていたね。**

「すごい」「いいね」ではなく、さらに具体的にプロセスに言及します。色・形・数などを見たまま表現するのもいいでしょう。具体的なフィードバックによって、自分の優れているところ、努力が必要などこ

ろがわかり、子供のモチベーションは自然と上がります。

#### 自由回答式の質問

**どこが一番大変だった？**

会話のキャッチボールができるような自由回答式の質問です。大切なのは大人がどう思ったかという評価を押し付けるのではなく、子供自身がどう感じたか。うれしいこと・達成したことについて対話し、共有することです。

上記は島村華子著「自分でできる子に育つ ほめ方 叱り方」(2020年、ディスカヴァー・トゥエンティワン)を参考にしています。

小学生と対話をしていると、その瑞々しい感性に心洗われる思いになります。

教師や保護者といった身近な大人が子供たちにかける言葉。それは最大の言語環境だと言えます。その言語環境を整えることはもちろんです。加えて何事においても子供が自ら適切な選択をできるように、勇気づけの言葉をシャワーとして浴びせたいと、過去の反省を踏まえて自戒の念を新たにしています。

## 笑顔を誘う話

6年生の子供との対話です。

私

**〇〇さんは、どうして学校の先生になりたいの？**

子供

**M先生みたいになりたいんです。**  
**M先生はいつも笑顔でかっこいいんです。**

本校の教育スローガンは「笑顔で登校、感謝で下校」です。だれもが笑顔で集まれる学校、満足して帰宅できる学校。そんな笑顔があふれ、喜びを実感できる伊倉小学校であるよう本校教職員一同尽力します。

◇本校ホームページも随時更新しています。[伊倉小学校](#)で検索